

『薬の飲み方を正しく理解しよう』

飲み方を間違えて危険な状態になった例をたくさん診てきました。

血圧の薬での失敗談一例を挙げます。高血圧薬を血圧が上がったときにだけ頓用するというのを、かつてはしばしば行われていましたが、最近ほとんどありません。現在は特別の場合だけに限られます。最近では決まった時間帯に1日1回内服する(薬によっては2回のことも)ことがほとんどです。安定的に血圧を緩やかに下げるために、長時間作用(従って1日1回)の薬が使われるようになりました。かつては薬の作用時間が短かったため1日3回内服する薬が多かったように思います。しかし、この場合は薬の効果が強い時間と弱い時間が1日3回波打ちますので適切な降圧とは言い難いと思います。

ときに非常に危険な飲み方を誤ってする人もいます。Aさんは高血圧の薬として降圧利尿剤毎朝1錠の処方が出ていたのですが、ある日、意識レベル低下し不整脈も頻発、高度脱水で搬送されました。血圧は70台に低下しており、生死にかかわる一步手前という状態でしたが、輸液(点滴)で脱水と電解質(塩分)の補正して速やかに元気になりました。驚いたことに1日1錠朝食後の薬を、ここ数日間毎日3~5錠、昼夜問わず飲んでいたので、「思わず何で?」と言ってしまいました。原因はすぐに判明。頭痛で医療機関に受診した際に高血圧が高度であったことから、1日1回の降圧利尿剤(塩分と水を尿に出す薬)と頭痛薬頓服をもらいました。患者は朝1回の降圧利尿薬も頭痛に効くと思いき、夜に頭痛があったので、それを飲んだ(頓服)のです。血圧の薬は定時薬で、頭痛時の薬は頓服で処方されていたのに、両方とも頓服したのです。

朝の定時薬は利尿薬ですから夜に飲むと夜間に頻回に尿意を催して眠れず、不眠のために反って頭痛がひどくなってしまい、さらにまた飲んだという悪循環に入ったのです。降圧利尿剤は一般には夜には飲みません。朝が普通です。結果的に水と塩分が尿に出続けて塩分バランスを崩す高度の脱水と生命維持ぎりぎりの血圧低下に陥ったということでした。Aさんは頭痛のときは血圧が高くなっていると思込んでいたそうです。

何を目的とした薬でどのように服用すれば良いのかを知っていることは重要なことです。薬をもらうときには、主治医・薬剤師から服薬について説明を受けて、解からないときは尋ねる、特に主治医とは気軽に話せる関係であることが大切だと思います。